アドベンチスト・サポート・ミニストリー 安息日参考説教文

「すべての人に手を差し伸べる」

ロニルソン・アルヴェス・ピント牧師

教会は、差別がなく、社会的、政治的、歴史的な障壁を乗り越える、公平な共同体でなければなりません。

レビ記21章１6節から26節には、アロンの家系で「障がい」のある者は祭司になることができませんでした。この場合、レビ族の祭司職は、完全な祭司であるキリストを指し示していました。それは決して不公平なことではありませんでした。しかしながら、一部のキリスト教徒は、この聖句を障がいのある人々を排除することを正当化するために使っています。

イエス様はすべての人を招いておられます。ヨハネによる福音書9章1節から3節では、弟子たちは生まれつき目の見えない人を見て、キリストに尋ねました。

「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」

聖書時代の人々は、障がいを持っている人について、神様から呪いを受けていると考えていました。

今日でも、神の民を自称する人々の間でも、世俗社会においても、障がいを持つ人々に対する偏見や排除が数多く存在します。しかし、神様はすべての人々を招き、救いたいと願っています。

1. 親切 - サムエル記下 9章1-3節

ダビデがイスラエルの王位に就いた時、彼は自分を憎んだ敵の者たちにさえ善を持って報いようとしました。彼は、最大の敵のサウル王の家系から生き残った者を探し始めました。ダビデはサウル王の子孫を皆殺しにすることもできましたが、そうではなく、その代わりにある一人を自分の息子のように大切に扱いました。

それはメフィボシェトという人でした。サウルの後の王位継承者でもありました。もしサウルが亡くなっていれば、彼の父ヨナタンが王になっていたでしょう。しかし悲しいことに、ヨナタンも亡くなり、残されたのはメフィボシェテだけでした（サムエル記下 9章1節）。

ダビデは尋ねました。「サウルの家系で、私が親切を示すことができる者はまだ残っていないだろうか？」ここでダビデは、すべての人々を救い、天の御国へ導きたいと願う神の親切を表しています。ダビデは、自分に危害を加えようとした者たちに対して、善いことをすることを選んだのです。

ダビデはヨナタンが亡くなる前にしっかりと契約を結んでいました。彼らは互いと子孫を大切にすることを誓いました。ダビデは家来のツィバを呼び寄せ、話の中で、サウルの家系でまだ生きている者がいるかどうか尋ねました。家来ツィバは、両足が不自由なメフィボシェトの存在について、心に悲しみを抱きながら答えました（サムエル記下 9章2-3節）。

メフィボシェトは二つの理由で殺されるに値する者でした。第一に、彼はサウル王の孫であったこと。第二に、彼は足に障がいがあり、歩けなかったということです。当時の文化では、家族、友人、社会からは、あまり良い存在として見られることがありませんでした。ダビデ王ｎ家来ツィバがメフィボシェトの家の戸を叩き、「あなたが見つかりました。王があなたを呼び寄せ、あなたに親切にすると言っています」と告げた時のことを想像してみてください。彼はそれを信じたでしょうか？メフィボシェトは二つの理由で死んでもおかしくありませんでした！

彼がダビデ王のところへ行くこと、妻や息子、友人たちに別れを告げる様子を想像してみてください。エルサレムの宮殿までの道のりは、何と辛い旅だったことでしょう。メフィボシェトの心の中では、その日が自分の人生最後の日だと思っていたのです。

２．著者の牧師からの物語

私の名前はロニルソンです。ブラジル北部のパラー・アマパー伝道区の牧師をしています。私は脳性麻痺を持って生まれ、運動協調性と喋ることに少し違和感がありました。ある日、神学校の3年目に、教授が授業で課題（宿題）を出しました。私はクラスで最高の成績を取りました。教授は私を祝福してくれましたが、まるで私が小さな子供であるかのような、子供っぽい口調と言葉遣いをされました。

授業後、友人が私のところにやって来て、何が起こったかに気づいていたと言い、先生に話すべきだと勧めてくれました。そこで、私たちは先生に話しました。私は先生に言いました。「なぜあのようなお祝いをされたのか理解できません。私はこの教室の他の誰とも変わりません。他の皆と同じように尊敬されたいです。どうか、もう二度としないでください。とても傷つきました。」

先生は私を見て言いました。「ロニルソン、悪意は全くなかったのよ。あなたが課題をやり遂げられたことが嬉しくて、興奮してしまったの。どうか許してね。あなたを傷つけているなんて全く思わなかったわ。」

最終的に、私は先生を許し、一緒に祈りました。

私たちは、人々をキリストの目を通して見るように注意しなければなりません。

３． 神様はあなたを含め、すべての人を愛している - サムエル記下 9章5-7節

ダビデはメフィボシェトを呼び寄せました。彼はヨルダン川の東に住む裕福なマキルの家、ロ・デバルという場所に住んでいました。マキルはイスラエルの王たちの友人でした。メフィボシェテとは「恥の口から出た者」という意味です。

サムエル記下4章4節には、メフィボシェテは5歳の時の事故で両足が不自由になったと書かれています。これはサウル王の死後、イスラエル軍がペリシテ人に敗れた後に起こりました。逃走中に彼は転倒し、足を骨折したのです。

４．教会はお体の不自由な方々に対してどのように対応すべきでしょうか。

教会は、すべての人々を受け入れるために、両手を広げ、門戸を開放すべきです。ダビデがメフィボシェトに親切を示し、彼の祖父サウルに属していたすべての土地を与えたように（サムエル記下9章7節）。メフィボシェトは周りの人々からも受け入れられました。彼はこれからダビデ王のために働き、貢献しすべての人に受け入れられることとなったでしょう。

教会として、私たちは、人々の身体的または知的な状態に関わらず、神様の業において自分が役に立つと感じられるように努めるべきです。神様は私たちを救い、この終わりの時代に私たちを役立つ者としたいと願っています。神様は、御国を前進させるためには私たちすべての人が必要であるという現実を、神様の民の一人ひとりがそこから目覚め立ち上がることを望んでおられます。

メフィボシェトは自己肯定感の低い人物でした。彼は自分自身を、価値のない、召使いのような死んだ犬だと考えていました（サムエル記下9章8節）。しかし今や、彼は常に王の食卓で食事をし、王子として扱われることになりました。メフィボシェトはエルサレムの王家の住民となりました。すべての人に軽蔑され、ダビデを通して神様の豊なみ恵みが注がれたメフィボシェトは、今や尊敬され、多くの召使いを従えた王子として見なされるようになりました。最も興味深いのは、彼が毎日のように王の食卓で食事をすることが出来たということです（サムエル記下9章10節）。

神様は、障がいのある人々、または、社会的、経済的に苦しんでいる人々に手を差し伸べるために私たちを用いたいと願っておられます。人々は、尊敬と承認に値する人生を望んでいるために、苦しみ、悩んでいます。これらの人々は、あなたとは異なる方法で多くのことを行う能力を持っています。社会や教会によって、誰も見捨てられるべきではありません。

５．まとめ＆アピール

「王の食卓で」という言葉が四度繰り返されています。この食卓は、盛大な宴の食卓の象徴です。私たちは皆、罪という障がいを共有しています。メフィボシェトのように、私たちも死に値する弱い存在です。しかし、私たちは天の御国で王子のように、小羊の晩餐の食卓を囲むことができるようになるでしょう。

もはや肉体的、知的、感覚的な障がいは、無くなることでしょう。罪という障がいもなくなり、私たちはすべて皆、完全に回復され永遠に生きることができるようになります。

神様は、障がいのある人々が尊敬をもって扱われ、社会と教会に受け入れられ、すべての人々のケアを受けるに値することを強く望んでおられます。

今日、主は、あなたを探し求めておられます。

主は、あなたを御自身の家族に迎え入れ、支え、ケア（お世話）をすることを望んでおられます。なぜなら、主はあなたを無条件に愛し、決して見捨てないからです。

主は、あなたを愛しておられます。主のみ腕に近づいて行きましょう。

主は、あなたを栄光の御国に連れて行き、あなたは御国で王子または王女となるでしょう。主は、あなたに天にある宝を与えてくださいます。

神様は、今のあなたのまま、ありのままで受け入れてくださいます。ですから、神様にすべてをお委ねいたしましょう。